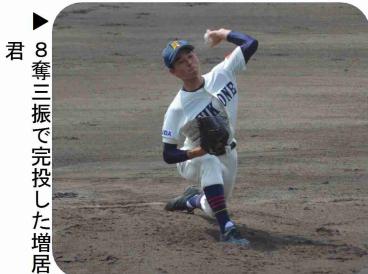


野球 平成29年度春季近畿地区高等学校野球滋賀大会

準々決勝

彦根東 3—1 滋賀学園



▶ 8奪三振で完投した増居君



▶ 4回決勝点となる適時打を打つ原君

5月3日に県立彦根球場で平成29年度春季近畿地区高等学校野球滋賀大会の準々決勝が行われた。本校野球部は第89回選抜高校野球大会に出場した滋賀学園高校と対戦し、3—1で勝利を收め、ベスト4となっ

**優勝候補最有力
滋賀学園下して
彦根東高校新聞
月刊
速報新聞
キマグレ**



発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金龜町4番7号

試合は滋賀学園に2回表2アウトから適時打で1点を先制された。本校は1回、2回と走者を出しつつも抑えられていた。しかし3回裏、ノーアウトから9番條野正宗君（3—7）が2塁打で出塁し、1番原晟也君（3—8）の送りバントで走者を三塁まで進めめた。その後2番朝日晴人君（2—4）の適時2塁打で1点を返した。さらに4回裏、6番増居翔太君（2—4）の安打や7番太田剛志（3—6）の内野安打、相手のミスなどで1アウト満塁とし、原君の適時打で2点を追加し勝ち越した。これが決勝点となつた。守備においても増居君が与四死7、被安打7と走者を出したものの3回以降滋賀学園の

アウェーから適時打で1点を先制された。本校は1回、2回と走者を出しつつも抑えられていた。しかし3回裏、ノーアウトから9番條野正宗君（3—7）が2塁打で出塁し、1番原晟也君（3—8）の送りバントで走者を三塁まで進めめた。その後2番朝日晴人君（2—4）の適時2塁打で1点を返した。さらに4回裏、6番増居翔太君（2—4）の安打や7番太田剛志（3—6）の内野安打、相手のミスなどで1アウト満塁とし、原君の適時打で2点を追加し勝ち越した。これが決勝点となつた。守備においても増居君が与四死7、被安打7と走者を出したものの3回以降滋賀学園の

原君は決勝点となる適時打を放ったことを「みんなから『任せた』と声をかけられたので、気持ちをしっかりと持てた」と微笑み「厳しい試合だったが、攻めも守りもきつかりで、よかつたと思う」と手ごたえを話した。

4打数2安打の高村真湖人君（3—8）は「1打席目は三振というふがいない結果だったが、前日に成宮先生に『自分にあつたプレーをしろ』と言われていたことを思い出し、自分らしいプレーができると思った」と試合の感想を話した。

今回の試合で完投をした増居君は「回を重ねるごとに球威が下がってしまいベストの状態を保てなかつた。監督から『体が傾いている』と言わされたので修正しながら投げていた。気持ちで行くのではなく

強打線を抑え込んだ。同点打を放った朝日君は試合の感想を「競った試合になると、打点を低くすることを意識して打つた」と話し、次の試合に向けて「自分たちにできることをしっかりと夏に向けても頑張りたい」と意気込んだ。

原君は決勝点となる適時打を放ったことを「みんなから『任せた』と声をかけられたので、気持ちをしっかりと持てた」と微笑み「厳しい試合だったが、攻めも守りもきつかりで、よかつたと思う」と手ごたえを話した。

4打数2安打の高村真湖人君（3—8）は「1打席目は三振というふがいない結果だったが、前日に成宮先生に『自分にあつたプレーをしろ』と言われていたことを思い出し、自分らしいプレーができると思った」と試合の感想を話した。

今回の試合で完投をした増居君は「回を重ねるごとに球威が下がてしまいベストの状態を保てなかつた。監督から『体が傾いている』と言わされたので修正しながら投げていた。気持ちで行くのではなく

TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	R
滋賀学園	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
彦根東	0	0	1	2	0	0	0	X		